

## とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都杉並区和田 1-17-6 小松本店第二ビル 1F
園名	カメラキッズ中野富士見町園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

歌を通して英語に親しむ

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

日常の遊びや活動の中で、0～2 歳児の子ども達は歌や音楽に親しみ、自然に口ずさむ姿が見られた。英語の歌を取り入れることで、英語特有の音やリズムに楽しみながら触れ、繰り返し歌う経験を通して無理なく英語を口にする機会を重ね、表現する喜びを感じられるようにしたいと考え、本テーマを設定した。

### 2. 活動スケジュール

4月～3月の期間において、毎日実施

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・英語の歌や音楽教材・生き物や身近な物のフラッシュカード・手作りの指人形・英語絵本・音楽再生機器・活動記録用のカメラ・記録用紙

### 4. 探究活動の実践

<活動の内容>

英語の歌や手遊びを取り入れ、音やリズムを楽しみながら繰り返し歌う活動を行った。体を揺らしたり手を動かしたりする中で、自然に英語の音を口にする姿が見られるようにした。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

英語の音を聞くと口を動かしたり、声を出そうとしたりする姿が見られた。音の響きやリズムに興味を示し、自分でも表現しようとする様子が見られる。また、同じ音を繰り返し聞く中で笑顔を見せたり、体を動かしたりと、次第に反応がはっきりしていく姿も見られた。繰り返しの経験が安心感や理解につながっていると考えられる。子ども同士では、一人の子が声を出すと、それに応じるように別の子も声を出す場面があった。言葉としてのやりとりには至らなくても、声を通して互いの存在を感じ合い、刺激を受けながら関わりが広がっている様子が見られる。

保育者との関わりでは、保育者の口元をじっと見つめ、音の出し方をまねしようとする姿が見られた。大人の発声や表情を手がかりにしながら、模倣を通して学ぼうとする意欲が育っていることがうかがえる。応答的な関わりの中で、言葉への興味や表現する楽しさが少しずつ深まっている。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

歌やフラッシュカードを取り入れることで、子どもたちは英語に対して期待感や興味を高めながら主体的に関わる姿が見られた。特に、繰り返しのある歌や視覚的に分かりやすいフラッシュカードは、年齢に応じた理解や表現を引き出すことにつながっていた。また、0～2歳児まで、それぞれの発達に応じて模倣や発声、やりとりへと関わり方が広がり、歌を通して自然に英語に親しんでいる様子が見られた。さらに、子ども同士で一緒に見たり反応したりする中で、安心感のある温かい雰囲気生まれ、英語での表現や関わりを楽しむ姿につながっていた。歌とフラッシュカードを組み合わせた活動は、無理なく英語に触れ、表現する楽しさを感じる有効な方法であると気づいた。